

研修便り



高知教育研究所教職員研修班
令和5年8月31日発行 No.164

「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、教育研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。



令和5年度

研究員13名 始動!

～次世代を担う 高知の子どもたちを育成するために～



「研究員制度」とは、教職員が学校等で実践しながら教育課程や学習指導法、学校・学級経営などについて研究を深め、研究の成果を高知市全体に普及し、学校教育の振興・充実に資することを目的に、教育研究所が行っている研究制度です。

研究計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	研究員決定	入所式 (5月16日)	全体定例会 (6月15日)	定例会 (領域別)	中間報告会 (8月21日)	全体実践発表(公開授業等) 各領域における実践発表 定例会(領域別)			研究報告書原稿 ・成果物提出	終了式 (2月22日)	研究報告書 完成・送付	

入所式 5月16日(火)

全体定例会 6月15日(木)

「学校が変わる・子どもが変わるI ～授業実践研究～」
講師：高知大学 刈谷 三郎 名誉教授

刈谷名誉教授から、一人一人の研究テーマについて助言を受け、各領域で研究の進め方を検討しました。

実践意義についての学習会



本年度も引き続き、これまで多くの教育論文の審査に関わってこられた刈谷名誉教授から、研究の具体的な取組や教育論文作成のための心得などについてご指導いただきました。



👉 オリジナリティ溢れる教育実践論文を目指して

- ① 研究対象をよく観察して実態把握をする。
- ② 研究テーマはシンプルにキーワードを設定し、それらの関係を構造化してテーマを絞る。
- ③ 先行研究を調査し、分かっていることと分かっていないことを明らかにする。
- ④ ゴールでの子どもの「具体の姿」を想定する。



🌱 これから一年を通して研究に取り組んでいきます。

研究員【敬称略】	所属	研究領域	研究テーマ	2023.8.9 現在
合野 友成	長浜小	教育相談	中学校入学時における不安を軽減するための組織的な取組	
野本 典子	横浜新町小			
矢野 史枝	横浜中			
井上 美智子	南海中			
片岡 裕登	一ツ橋小	特別支援教育	不登校の予防や支援につながる開発的・予防的な学級活動	意欲を高める地域とのつながりを生かした作業学習
下元 美樹	城西中			
長崎 千殊	朝倉小	授業研究	ICTの活用を通して読解力を育てる国語科授業	
小島 康弘	五台山小			
細川 真一	旭中			
五百蔵 さくら	鏡小			
古谷 侑亮	春野西小	人権教育	避難所生活体験を通じた児童の自治的態度の育成	
田中 朋広	久重小	学校事務	教育活動を効果的に達成する組織的な財務運営の確立	～学校経営計画に基づいた予算編成～
藤川 修堂	春野中			



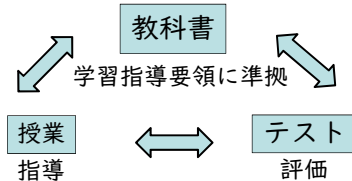
【講義・演習】「テストから考える指導の在り方－「書くこと」を中心に－」

講師：東京外国語大学 大学院総合国際学研究院 根岸 雅史 教授



教科書，授業，テストの三つを連動させた一貫した英語教育プログラムが必要です。

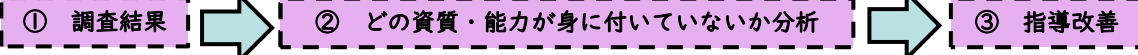
一貫した教育プログラム



【全国学力・学習状況調査の調査問題について】

- ・ 学習指導要領が求める育成を目指す資質・能力を踏まえて作成されている。
- ・ 教員による指導改善や、児童生徒の学習改善・学習意欲の向上などに役立つ。
- ・ 国際的な学力調査の考え方や調査結果及び課題等も考慮して作成されている。

つまり…



調査結果を指導改善に活用していますか？

令和5年度 全国学力・学習状況調査 中学校第3学年 英語 設問9，設問10 から考える「書くこと」の指導改善

設問9

文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書く問題

「正確に書く」ためには、音声や語彙、表現、文法や言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けておくことが重要である。

設問9では、文構造や文法事項、言語の働きなどの知識を活用し、正しい語順で文を構成することや、伝えたいことについての情報を正確に書くことが出来るかどうかを把握することをねらいとしている。

「令和5年度 全国学力・学習状況調査 中学校第3学年 英語」から抜粋

授業改善のポイント

○「文脈から使用する文法を判断する活動」を授業に取り入れる！

【方法】

- (1) 複数の時制が混在するような文章を選ぶ。
- (2) 動詞のみ（主語は含まないようにする）を抜き、原形にして提示する。
- (3) 文脈から動詞の正しい形を考えさせる。

例 教科書の本文を活用した練習方法

Asami : Nice presentation, Josh. That (be) interesting.
 Josh : Thanks. Gandhi is a man who (influence) a lot of people around the world.
 Asami : He (work) for Indian independence, right?
 (参考：「New Horizon English Course3」 p.74 (東京書籍) ※一部抜粋)

設問10

日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く問題

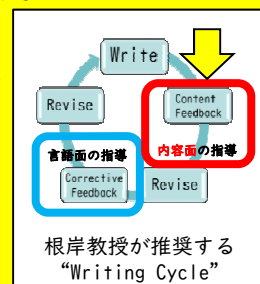
「まとまりのある文章を書く」とは、文と文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書くことである。そのためには、「序論－本論－結論」や「主張－根拠や具体－主題の言い換えや要約」など、文章校正の特徴を意識しながら、全体として一貫性のある文章を書くことが重要である。また、出来事や事実を描写したり、考えや感想を述べたりする場合において、よりよく読み手に伝わるように意識しながら、自分の言いたいことに最もふさわしい表現形式を工夫して書き表すことも重要である。

「令和5年度 全国学力・学習状況調査 中学校第3学年 英語」から抜粋

授業改善のポイント

- (1) コミュニケーションの目的・場面・状況等の設定
→ 誰が、誰に、何のために書くか
- (2) とにかく頻繁に書かせる
野球で例えると、バッティングの理論をいくら指導しても、実際に打たせる経験を積ませなければ、打てるようにはならない。つまり、生徒に書く力を付けさせたいならば、書く経験を積ませる必要がある。
- (3) 指導の重点
→ 内容面の指導を重視する
→ 言語面の指導（文章校正）はその後

まずは、正しい英文 < まとまった量の英文



The only way to learn to write is to write.
 It doesn't matter what it is, you have to write every day.



書く力を付けるためには、とにかく毎日書く経験を積む必要があるね！

【受講者の感想】

今日得たことは、生徒のできていないことに対して、何をこちらが指導していくかを考えて授業を行っていくことが大切だということだ。今後は、「時間がなくて添削ができないから書かせない」ではなく、集めることができない日があっても、少なくとも週に1回は集めて定期的にフィードバックをしようと思う。また、ALTと連携し、生徒に力を付けていきたい。特に、文章校正だけでなく内容のフィードバックを行うことも大切にしていきたい。